

1. 教育の責任

1年生講義である「建築・インテリア総論」では、オムニバス形式として2年次のゼミナール選択につながる専門領域の概要を紹介する他、他講義や資格や就職につなげた学修を意識した説明を心がけている。

講義では、建築計画及び建築法規を通して、建築・インテリアに対して、社会で必須とされる実践的な専門知識の習得を目指している。また、それらを具体的な設計・計画に活かすと共に、デザインや図面として表現していくことを演習授業で実践している。

「建築計画Ⅲ」（講義、建築コース 選択科目 春学期 2単位 77名）

「建築・インテリア総論」（講義、建築コース 必修科目 春学期 2単位 114名）

「設計製図演習Ⅰ」（演習、建築コース 必修科目 春学期 2単位 15名）

「設計製図演習Ⅱ」（演習、建築コース 必修科目 秋学期 2単位 15名）

「建築法規」（講義、建築コース 選択科目 秋学期 2単位 89名）

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（講義、建築コース 必修科目 春・秋学期 各2単位 18名）

「卒業研究」（講義・演習、建築コース 必修科目 春・秋学期 各2単位 15名）

「学びの道しるべA・B」（講義、必修科目 春・秋学期 各2単位 24名）

2. 教育の理念

建築・インテリアは文化創生としてそのデザイン性が評価されると共に、暮らしやすく安全な社会を長期間支える社会資産としての役割を担っています。企画や計画、施工といった建築される前段階での構想や価値観の共有は、建築後の建物の魅力や愛着につながることを考えています。このような魅力ある建物をつくるためには、まず専門的知識を元にした構想を他者に伝えるための表現力が必要となります。自分の目指す建築がどのようなものかをわかりやすく伝えることで、社会的な共感を得ること、建物への魅力を長期間伝え続けることができると考えます。

このような魅力を伝えるためには、建築教育として建物に対する多くの視点を伝えること。またそれを魅力的に伝える必要があると考えます。これらに各学生が興味を持って学修できる環境をつくることを意識しています。

3. 教育の方法

【教育の目的と目標】

上述の理念に基づき、下記の点を意識した教育を実践している。

知識や技術の伝達：専門知識や技術の伝達は、現在も行っている設計活動での経験を活かし、具体的な事例を用いることを意識しています。具体的な建物の見学や実測を図面や模型表現とつなげることで、実際の空間認識をつくることを目指しています。

学生の専門能力の向上：演習の授業だけでなく、講義科目においても学修した専門知識がどのような「かたち」になっていくのか。専門知識とデザインが、実際の建物でどのように実現されているのかを紹介しています。専門知識と創造力をどのように表現すれば、他者に伝わるのかを意識しています。また具体的な建物の実測や見学に行くことで、図面表現と現実空間とのつながりを意識していけるように促しています。

【教育実践】

課題：具体的な建物のデータを集め、講義で行った手法を用いて自分でも分析してみることで、実際の建物と学修した知識が具体的に結びつくようにしています。

試験：建築士試験等の専門分野の資格試験問題に基づいた設問を部分的に用いることで、建築士が社会的に求められる専門知識の内容に加えて、将来建築士として活躍できるように目指しています。

双方向的な学習：各学生が持った興味が他の学生にも伝わるように、課題で取り上げられた事例や質問を授業時に解説するようにしています。各々がどのようなことを考えているのか、またどのようなプレゼンテーションがよりわかりやすく伝わるのかを知ることで、多様な視点

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：高木 恭子 作成日：2026年01月31日

他講義につながる学習：座学ではテーマを明確にすることで、他講義との違い、他講義とのつながりを意識するように促しています。また演習にもつながるよう、座学でも図面によるメモ作成や図面の読み込み等を試んでいます。

4. 教育の成果

「ゼミナール」では、万博を建築資料として読み解くこと、またそれらを他者に説明すること。また現地でどのようにそれらが使われているか、その効果等を実際に確認することで、座学と実践をつなげることを試みた。

「建築計画Ⅲ」の課題では、計画学の基礎を図面を用いて紹介し、設計製図につながるゾーニングや機能図が書けるようにした。またそれらの知識に基づいた建築作品の読み取りを口頭発表と質疑を行い、自分の言葉で説明することを意識させた。

「設計製図演習Ⅰ・Ⅱ」では、自分の考えた建築を図面として表現することを意識させるため、図面のチェック表を作成し、SA学生に第1段階のチェックを得ることで、図面の正確性を高めることを試みた。

また、各テーマに沿った実際の建物見学を課題として加えることで、設計と実際の建物との関係を知ることを促した。

5. 改善への努力と今後の目標

具体的な建物やアートを見に行くことを促すこと。また具体的なプレゼンテーションを紹介すること等から、知識が社会につながることを伝えていくことを目標としたい。そのために、講義の中で身近な建物の紹介を積極的に行っていくこととする。

【添付資料】

なし